

## 課題の概要

- 課題分類 「ライフサイエンスの先端科学技術が社会に与える影響の調査研究」
- 提案課題名 「遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究」
- 研究代表者名 「鎌田 博」
- 中核機関名 「筑波大学」

### 調査研究の目標・概要

#### 1. 目的・目標

##### ・目的

GMO（遺伝子組換え作物・食品）等に対する国民理解を促進し、研究成果の普及の障害となっている問題点を具体的かつ実証的に抽出・把握し、それを解消するための有効な施策の方向性を明らかにすることを目的とする。

##### ・目標

GMO理解増進の阻害要因の分析と促進要因を提示するとともにGMO理解増進に資する具体的な施策の提案を行う。

#### 2. 研究計画

- ・国民各層および様々なステークホルダー（関係者等）に対する各種社会調査やワークショップ、国際会議、海外事例調査などを通じて、中長期的な視点から、GMO等に関する国民理解促進のための要因を明らかにし、具体的な施策を提案する。研究者を説明者とする、教育現場で取り上げること、科学に興味のない大多数の市民に対する方策を考案すること、などが挙げられる。

#### 3. 実施体制

##### ・調査研究の実施体制：

遺伝子組換え植物研究の拠点および遺伝子教育の実績を有する筑波大学を中核機関として、東京大学によるステークホルダー研究、大阪学院大学による国民の心理構造分析、NPO法人くらしとバイオプラザ21による実践的な理解増進手法の開発など、多角的な研究体制を構成する。加えて理科の教員、報道機関などの参加も得て、実践的な検討を積み重ねてゆく。

##### ・中核機関の適性：

筑波大学（遺伝子実験センターおよび教育研究科）は、植物遺伝子組換えの代表的研究拠点であると同時に、遺伝子教育や社会的コミュニケーション活動を継続的に行っており中核機関として十分な適性を有する。

##### ・研究代表者の適性：

研究代表者鎌田博は、遺伝子組換え研究者としての長年の実績に加え、遺伝子教育、社会を対象とした普及啓発活動、関連省庁との連携などの面で適任である。

### 調査研究の成果による波及効果について

- ・遺伝子組換え技術およびGMOの国民理解が促進されるとともに、ライフサイエンス・バイオテクノロジー研究への社会的理解が深まる。

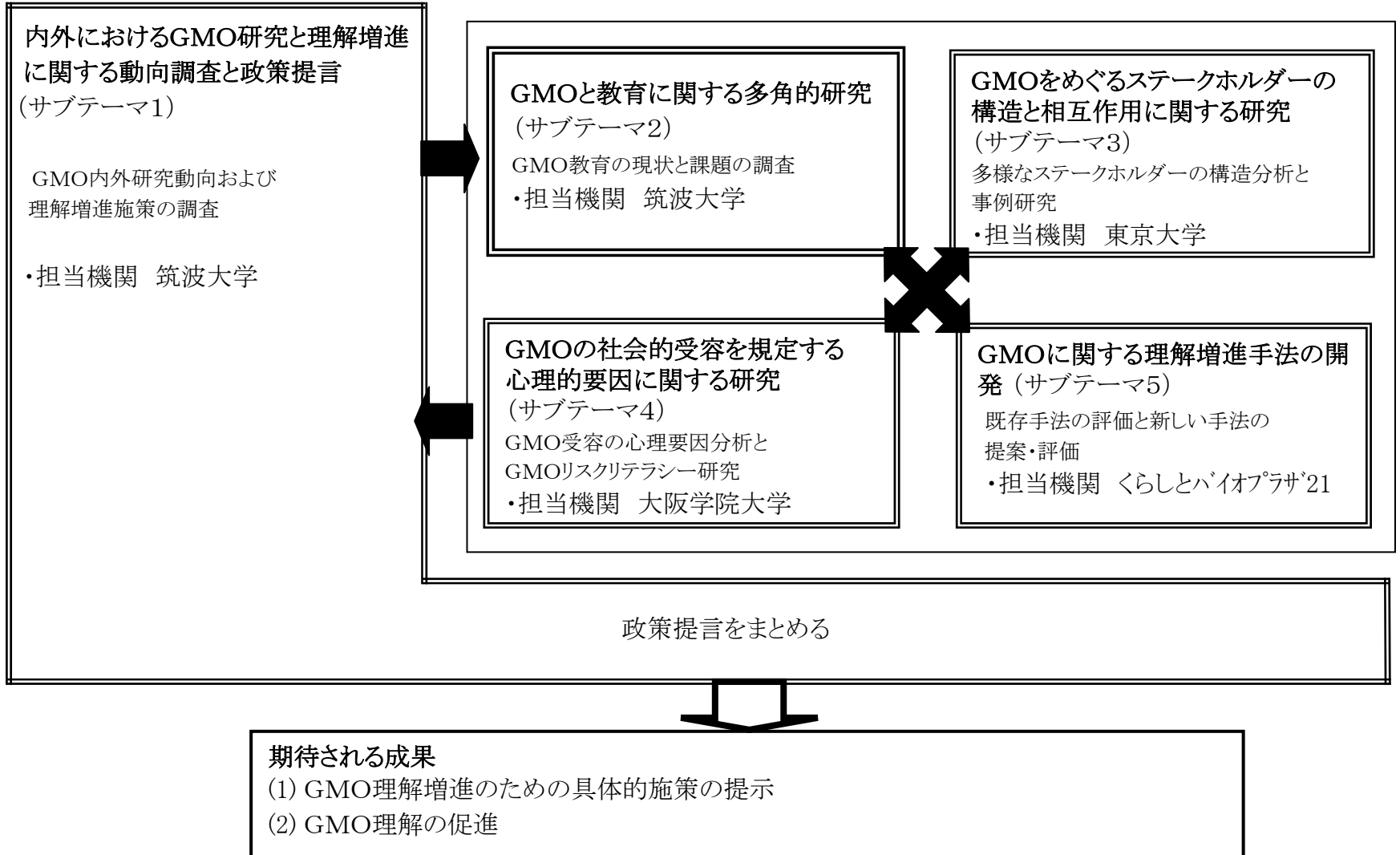
### 調査研究終了後の展開について

- ・学校、自治体、メディア、NPO法人などと連携しながら、実効性のあるGMO教育プログラムや市民対象の理解増進手法を実践的に展開していく。



## 課題の実施体制

- 課題分類 「ライフサイエンスの先端科学技術が社会に与える影響の調査研究」
- 提案課題名 「遺伝子組換え技術の国民的理解に関する調査研究」
- 研究代表者名「鎌田 博」
- 中核機関名 「筑波大学」



# 課題の実施内容

内外における  
GMO研究と理解  
増進の調査と分析

担当: 筑波大学

- ・内外の研究・関連政策動向等の分析
- ・理解増進の阻害要因・促進要因分析
- ・海外の理解増進施策の調査・分析
- ・理解増進に向けた国際シンポジウム

既存の内外調査研究結果等

ステークホルダーの構造と相互作用の調査と分析

担当: 東京大学

- ・ステークホルダー事業者間の相互関係と意識の分析
- ・研究者コミュニティの構造・意識分析
- ・自治体の政策決定過程の分析

社会的受容を規定する心理的要因の調査と分析

担当: 大阪学院大学

- ・心理モデルの作成と検証
- ・リスクリテラシー(思考方法など)を測定し、態度との関係を検証

教育に関する調査と検討

担当: 筑波大学

- ・内外の学校教育におけるGMO教育実態調査
- ・総合的連携による教科横断的な方策の検討
- ・市民対象の新たな理解増進手法(Science & Art)

理解増進手法の調査と検討

担当: くらしとバイオプラザ21

- ・既存の理解増進手法の分析・評価
- ・体験型理解増進手法の開発・評価(キッチンバイオカフェ、遺伝子組換え圃場見学会、連続的開催等)

GM作物・食品(GMO)に対する国民的理解の  
阻害要因と促進要因の多角的・実証的分析

GMO理解増進に資する施策の提言

国民の理解増進に資する効率的手法の提示

[研究者(説明者)、教育、ステークホルダー間連携]

農業政策・食糧政策に対する課題の明示

期待される成果と展開:

- (1) 実効性のあるGMO教育プログラムや市民対象の理解増進手法を実践的に展開
- (2) 総合科学技術会議ライフサイエンスPTおよび関連省庁の施策展開に資する提案